

# 完璧さを追わないしなやかさ

356

ピアニスト フジコ・ヘミング



長尾和宏(ながお・かずひろ)  
医学博士。公益財団法人日本  
尊厳死協会副理事長としてリビ  
ング・ウィルの啓発を行う。映画  
『痛くない死に方』『けったいな  
町医者』をはじめ出版や配信な  
どさまざまなメディアで長年の  
町医者経験を活かした医療情報  
を発信する傍ら、ときどき音楽  
ライブも。

65歳で町医者を卒業した僕。第二の人生は、歌手の夢を叶えたい——そんなわけで6月15日(土)は神戸の「クラブ月世界」で、22日(土)は東京の「南青山MANDARA」でライブ! 大好きな桑田佳祐さんと中島みゆきさんの曲を唄いますので、皆さん遊びに来てください(詳細は僕の公式HPに)。今は毎日、歌の練習中なのですが、なかなか歌詞が覚えられない。「歳やなア…」と落ち込んでいるとき、この人の言葉がラジオから流れてきました。

「少しくらい間違えたっていいじゃない。機械じゃないんだから」  
焦りがすっと消える言葉です。この名言の主である世界的ピアニストのフジコ・ヘミングさんが4月21日に亡くなりました。享年92。死因は膵臓(すいぞう)がんと発表です。



フジコさんは、昨年11月に自宅で転倒してけがをされ、その後のコンサートを中止していました。リハビリを続けていましたが、今年3月には、膵臓がんと診断されて療養をされていたそうです。

90歳を過ぎて、がんと診断されたらどうすればいいのですか? ときどきそんな質問を頂きます。もちろ

んど本人の意思ありきですが、「何もしなくていいと思うよ」とお答えしています。

高齢化社会とともに、「天寿がん」という概念が浸透してきたように感じています。読者の皆さんはこの言葉を知っていますか? 「天寿がん」という概念を提案されたのは、医学博士の北川知行氏(公益財団法人がん研究会がん研究所名誉所長)です。

1994年に、天寿がんは「安らかに人を死に導く超高齢者(男性85歳、女性90歳以上)のがん」と定義されました。がん治療は高齢になるほど攻撃的であってはならない。がんと共に寿命を全うできる年齢がある。すなわち限りなく自然死、平穏死となる、がん。

北川先生は天寿がんを普及するた

め、以下の「6つの思想」を提案されました。紹介します。

①人は天寿を授かっている②安らかに天寿を全うすることは祝福されるべきことである(死因は不問)③超高齢者のがんは、長生きの税金のようなものである④超高齢者のがん死は、人の一生の自然な終焉(しゅうえん)の1パターンと考えられる⑤天寿がんなら「がん死」も悪くない⑥天寿がんとわかれば、攻撃的治療も無意味な延命治療も行わない  
なんと素晴らしい思想でしょうか。そして、92歳のフジコさんは、この思想を実践されて旅立ったようにもお見受けします。

・10代のとき病気により聴力を失ったフジコさんが大事にしていたものは「音」でした。人生とは、日々何かを失っていく旅。だから完璧であろうとしてはならない——フジコさんのようにしなやかに僕も音楽を続けていきたいです。